

平成26年度 宮崎大学みやだいCOC事業に関する意識調査集計結果

1. アンケート調査方法

平成27年1月8日（木）から1月30日（金）までに全学生、全教職員、全連携自治体（宮崎県、日向市、串間市、西都市、えびの市、五ヶ瀬町）に依頼し、回収した。

対象者数

【学生】

| | |
|-------|-------|
| 全学生数 | 4769 |
| 有効回答数 | 2901 |
| 有効回答率 | 60.8% |

【教員】

| | |
|-------|-------|
| 全教員数 | 656 |
| 有効回答数 | 365 |
| 有効回答率 | 55.6% |

【職員】

| | |
|-------|-------|
| 全職員数 | 630 |
| 有効回答数 | 434 |
| 有効回答率 | 68.9% |

【自治体】

| | |
|--------|------|
| 全連携自治体 | 6 |
| 有効回答数 | 6 |
| 有効回答率 | 100% |

2. アンケート調査目的

宮崎大学みやだいCOC事業に対する意識調査を本学に在籍する学生、教職員、連携自治体を実施し、学生の地域活動を大学が推進・促進するための検討資料、また、宮崎県内の定着率の拡充に向けた支援策の検討資料とすることを目的とする。

3. アンケート調査結果

3-1. 学生

(1) みやだいCOC事業の認知度 ※ () 内は前回の結果

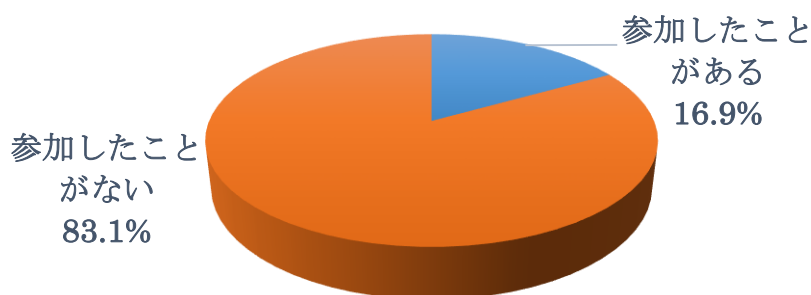
| | 知っている | 知らない | 分からない |
|--------|---------------|---------------|---------------|
| 教育文化学部 | 29.5% (21.4%) | 58.1% (64.8%) | 12.4% (13.8%) |
| 医学部 | 27.0% (16.2%) | 62.1% (72.5%) | 10.9% (11.3%) |
| 工学部 | 30.8% (17.4%) | 56.6% (70.5%) | 12.6% (12.1%) |
| 農学部 | 49.9% (23.8%) | 38.8% (67.9%) | 11.3% (8.3%) |
| 総数 | 34.9% (19.9%) | 53.1% (69.1%) | 12.1% (10.9%) |

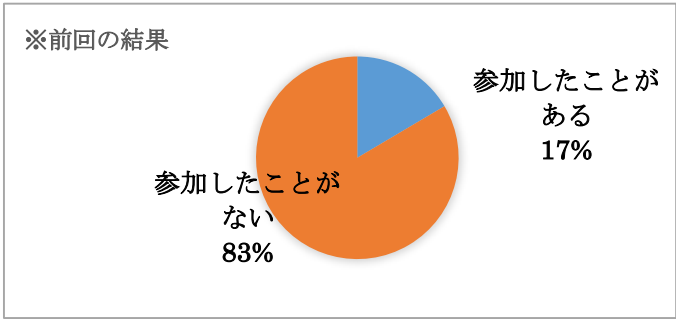
(2) みやだいCOC事業への参加意思 ※ () 内は前回の結果

| | 参加したい | 参加したくない | わからない |
|-------|---------------|---------------|---------------|
| 知っている | 40.6% (45.6%) | 11.5% (9.8%) | 48.3% (44.7%) |
| 知らない | 22.0% (23.8%) | 27.3% (19.1%) | 50.7% (57.1%) |
| わからない | 13.2% (15.3%) | 8.9% (7.1%) | 77.9% (77.6%) |
| 総数 | 27.3% (27.2%) | 19.6% (15.9%) | 53.1% (56.9%) |

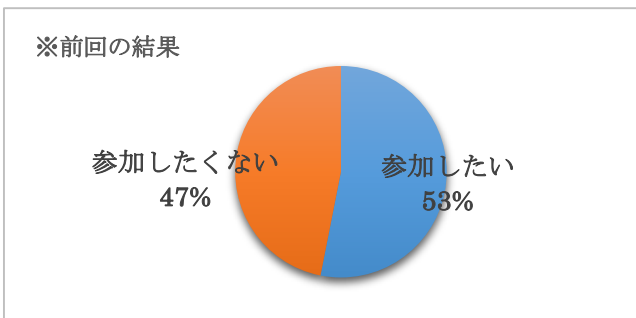
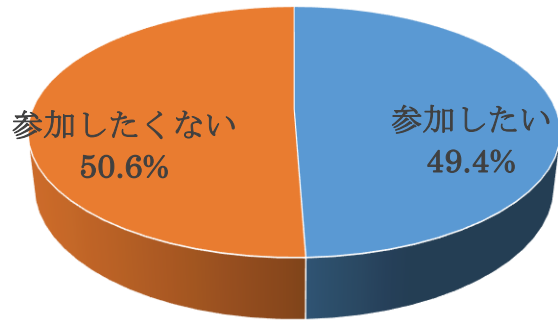
(3) 公募型卒論、チャレンジプログラム、ボランティアへの参加について

① 公募型卒論、チャレンジプログラム、ボランティアへ参加したことがあるか

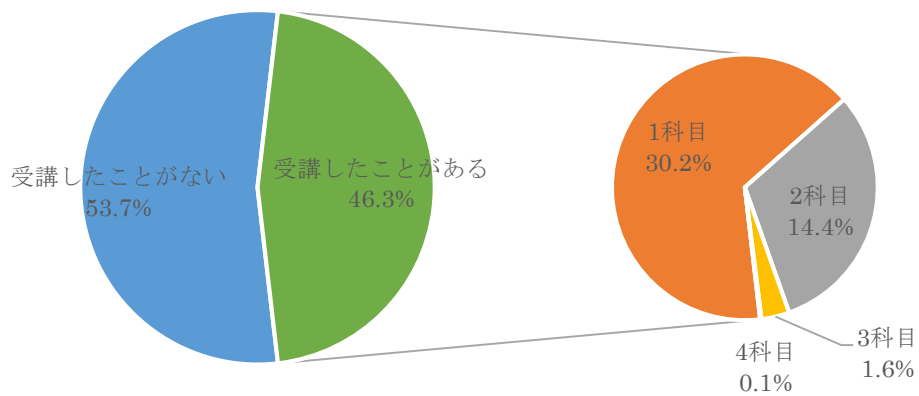




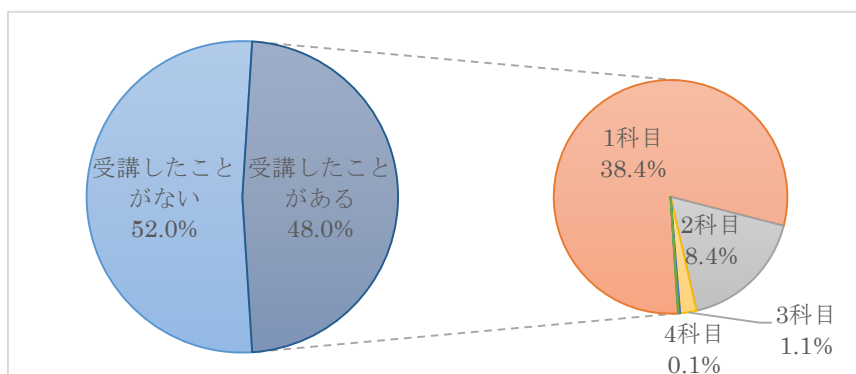
② 今後、参加したいと思うか。



(4) みやだいCOC事業として実施している基礎教育科目を受講したことがあるか



※前回の結果



(5) みやだいCOC事業として実施している基礎教育科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域課題解決に役立つ知識・理解・能力が深まったか。

※ () 内は前回の結果

| | はい | いいえ | わからない |
|------|---------------|---------------|---------------|
| 1科目 | 34.0% (40.9%) | 19.2% (16.2%) | 46.8% (42.9%) |
| 複数科目 | 65.7% (53.7%) | 13.8% (7.0%) | 21.2% (39.3%) |
| 総数 | 39.8% (43.6%) | 16.3% (14.4%) | 43.9% (42.0%) |

(地域課題解決に役立つ知識・理解・能力が深まったと答えた学生対象)

(6) 受講で得た知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思うか。

(自由記述方式)

- ・自分の専門分野を使って地域貢献する道を探したい。
- ・宮崎を盛り上げるようなイベントや、ボランティアに参加したい。
- ・現状の把握は出来たが、そこから課題解決へのプロセスが分かりづらく、特に知識が足りないと感じる。身についたものは最大限に活かしたいと思う。
- ・地域の企業等に就職し、知識を還元しようと思います。
- ・地域の様々な状況を把握し、活性化への力になりたい。自分で何か打開策を考えて企画してみたい。
- ・ゼミの先生と話し合い、地域活性化のプロジェクト(小規模)を計画したいと思う。
- ・どの様に活かしていけば良いか分からないので、何も変わらないと思うが、どうにかして役立てたいと思う。

など

(7) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

- ・ボランティア活動等、現在どのような活動を行っているのか学生にもっと告知して欲しい。
- ・講義の受講を希望してもあぶれてしまったので、来年度からはあぶれる生徒がでないようにして欲しい。
- ・この前の五ヶ瀬のしいたけのイベントに参加しました。とても楽しかったです。ぜひこういった「地域×食品」のイベントをもっとして欲しいです。
- ・科目を増やしてほしい。
- ・様々な分野から地域活性化について学べると良いと思います。経済や農業だけでなく、医療や教育等からも考えていけたら、そして、多学部の学生で議論出来たらおもしろいと思いました。
- ・他大学(公立校、南九州大など)とも協力し、地域貢献することに期待している。

など

3-2. 教員

(1) みやだいCOC事業への認知度 ※ () 内は前回の結果

| | 知っている | 知らない | わからない |
|--------|---------------|---------------|-------------|
| 教育文化学部 | 75.4% (94.0%) | 17.5% (2.0%) | 7.0% (4.0%) |
| 医学部 | 57.1% (49.6%) | 38.2% (44.3%) | 4.7% (6.1%) |
| 工学部 | 100% (93.0%) | 0.0% (4.7%) | 0.0% (2.3%) |
| 農学部 | 98.7% (97.7%) | 1.3% (2.3%) | 0.0% (0.0%) |
| 附属施設 | 98.7% (74.1%) | 1.3% (22.2%) | 4.5% (3.7%) |
| 総数 | 74.8% (78.0%) | 21.6% (18.6%) | 3.6% (3.4%) |

(2) みやだいCOC事業として、地域に関する教育・研究に参加しているか。

※ () 内は前回の結果

| | 教育・研究それぞれにおいて参加している | 教育のみ参加している | 研究のみ参加している | いいえ |
|--------|---------------------|------------------|------------------|------------------|
| 教育文化学部 | 5.3% (20.0%) | 15.8% (10.0%) | 3.5% (6.0%) | 75.4% (64.0%) |
| 医学部 | 12.9% (16.0%) | 9.4% (10.7%) | 4.1% (6.9%) | 73.5% (66.4%) |
| 工学部 | 20.5% (15.1%) | 48.7% (12.8%) | 7.7% (5.8%) | 23.1% (66.3%) |
| 農学部 | 28.6% (27.6%) | 9.1% (5.7%) | 19.5% (14.9%) | 42.9% (5.2%) |
| 附属施設 | 18.2% (26.0%) | 13.6% (0%) | 13.6% (11.0%) | 54.5% (63.0%) |
| 総数 | 16.2% (19.7%) | 14.8% (9.2%) | 8.2% (8.7%) | 60.8% (62.5%) |

(3) みやだいCOC事業として、地域を志向した教育・研究に参加したいと思うか。

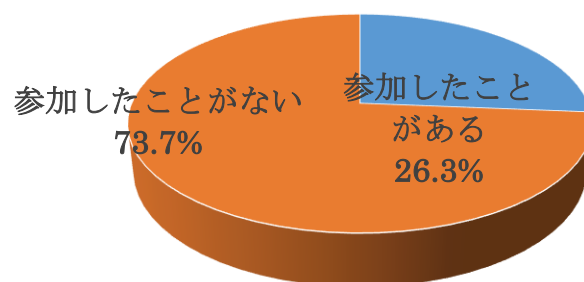
※ () 内は前回の結果

| | 教育・研究それぞれに参加したい | 教育のみ参加したい | 研究のみ参加したい | いいえ |
|--------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 教育文化学部 | 45.6% (58.0%) | 15.8% (12.0%) | 1.8% (4.0%) | 36.8% (26.0%) |
| 医学部 | 45.3% (51.9%) | 11.2% (11.5%) | 14.1% (11.5%) | 29.4% (25.1%) |
| 工学部 | 64.1% (51.2%) | 17.9% (14.0%) | 7.7% (19.8%) | 10.3% (15.0%) |
| 農学部 | 64.9% (66.7%) | 5.2% (2.3%) | 20.8% (23.0%) | 9.1% (8.0%) |
| 附属施設 | 68.2% (63.0%) | 9.1% (3.7%) | 18.2% (7.4%) | 4.5% (25.9%) |
| 総数 | 52.9% (57.0%) | 11.2% (9.4%) | 13.2% (14.7%) | 22.7% (19.2%) |

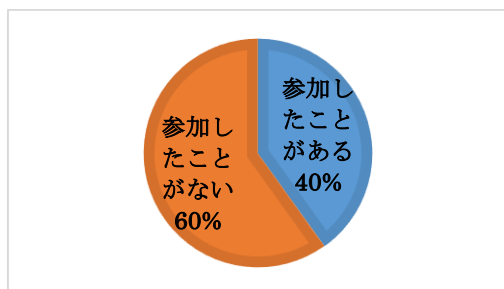
(4) 今までに下記のFD/S Dに、1つでも参加したことがあるか。

- ・COC概要を説明した教授会@各学部
- ・「九州・沖縄シンポジウム IN 宮崎 2014ー地域の未来を切り拓く高等教育とはー」

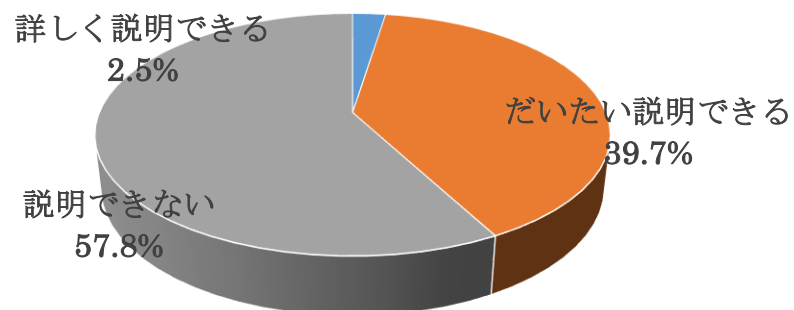
(平成 26 年 11 月 22 日) @創立 330 記念交流会館 コンベンションホール



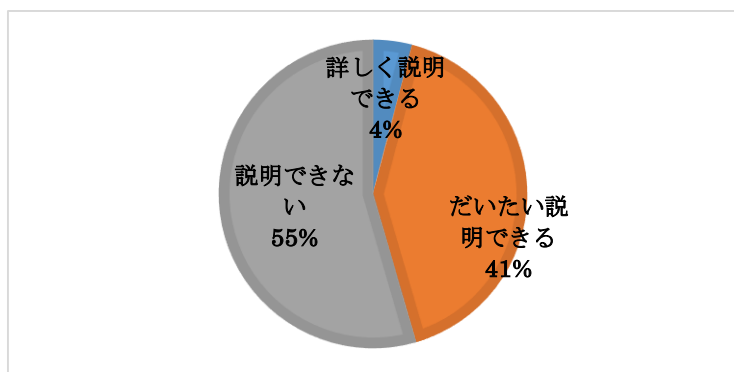
※前回の結果



(5) みやだいCOC事業について、学生に説明することができるか。



※前回の結果



(6) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

・「地域のため」というスローガンのせいか、狭い意味で、地域の「利益(潤)」に繋がるような考え方が支配的であるように見える。直接的な利益ばかり追求すると長い目で見るとマイナスになることがあるのではないかと。間接的な、長期的な視野に立った方向性も検討して欲しいと思う。本学のメイン・スローガンは「世界を視野に地域から始めよう！」だったと思います。

・地域志向研究経費を各年ではなく、中長期的に配分してもらいたい。地域や大学などスラークホルダーが増えると研究に時間がかかるため。

・大学は学問をやる場所であること、大学は教育研究機関であってサービス機関ではない、と言うところがしっかりしていれば、何をしても良いと思います。

・大学教育入門セミナー等で急にCOC関連の内容が追加された。昨年度の反省を踏まえて、シラバス等の改訂を至急行って欲しい。また、教員間でこれに対する認識の違いが大きいので、今一度アナウンス、広報をして欲しい。

・大学入門教育に無理矢理COCを当てはめるように通達があるが、どう考えても適合しないようです。教育内容と教員の守備範囲を十分検討していただきたいと思います。

・研究・社会貢献に関する「地域」の定義が狭く、「テーマ」も限定しすぎと感じています。教育に関しては、入門教育で繰り返し宮崎県を取り上げることが必要なのでしょうか？報告義務を課せられているので従ってはいませんが、度を超していると感じています。責任者の理性を問いたいですね。

・地方大としてとても重要な取り組みだと思う。ただ、ひとつひとつの取り組みを積み重ねる一方で、地域のメディアと連携し、広く県民・国民にこの取り組みを知ってもらうことが必要ではないか。広報も十分に努力されていると思いますが、もっとメディアへのPRが出来ると思う。

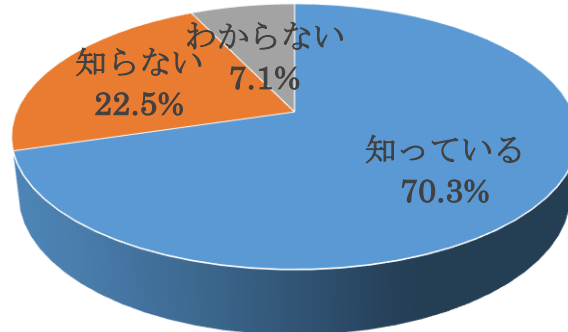
・大学として、宮崎を牽引するような事業を展開して欲しい。

・シンポジウム等の講演をweb上でストリーミング配信し、多くの人に見てもらえるようにしてはいかがでしょうか。

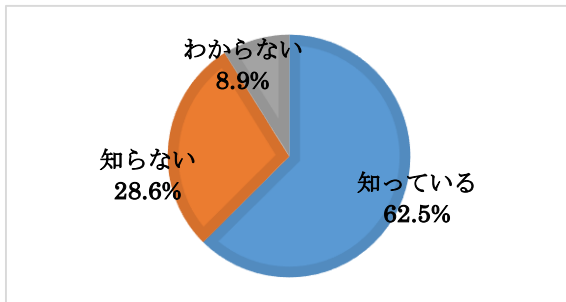
など

3-3. 職員

(1) みやだいCOC事業の認知度



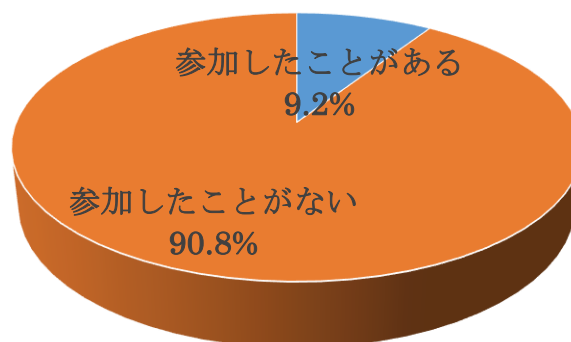
※前回の結果



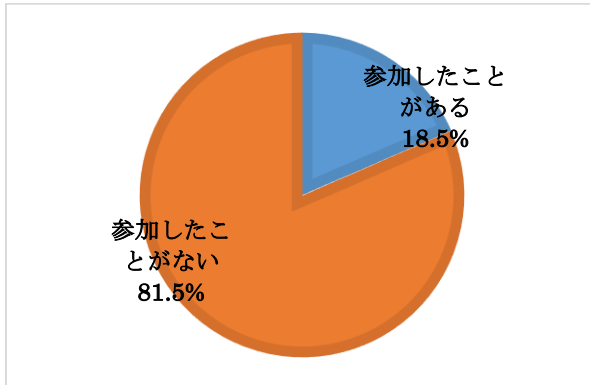
(2) 今までに下記のFD/SDに、1つでも参加したことがあるか。

- ・COC概要を説明した教授会@各学部
- ・「九州・沖縄シンポジウム IN 宮崎 2014—地域の未来を切り拓く高等教育とは—」

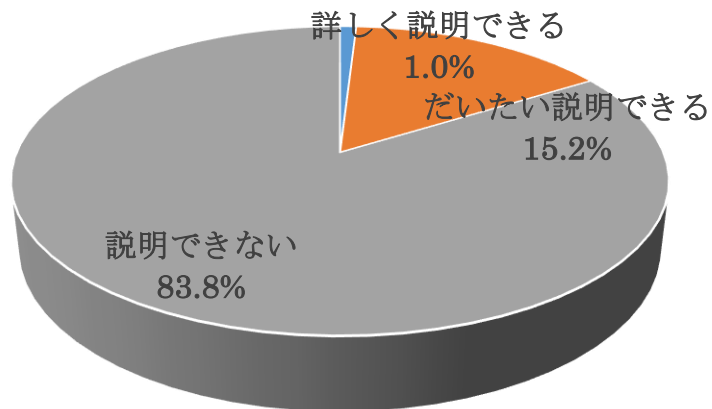
(平成26年11月22日) @創立330記念交流会館 コンベンションホール



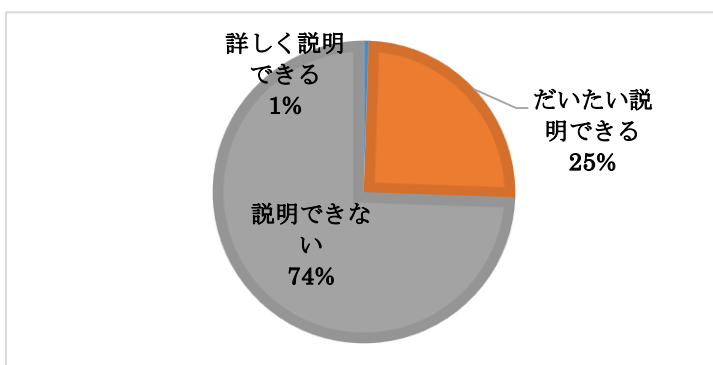
※前回の結果



(3) みやだいCOC事業について、学生に説明できるか。(※学部・教務に携わる部局に所属の方のみ)



※前回の結果



(4) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

・国立大学法人改革に向けた財務省案によれば、本学は「地域活性化の中核拠点を目指す大学」との位置づけが有力であると考えられる。その状況で本学COC事業の役割、使命はますます重要となることと成り、平成28年4月設置予定の地域資源創成学部(仮称)も地域の社会経済を担うリーダーを育成することをミッションとしているので、この新学部へのCOC事業の移行、連携も含め、今後の取り組み、成果を期待したい。また、本学が「地域活性化の中核的拠点を目指す大学」であれば、新学部も含めた全学(各センターを含む)で取り組み耐性を強化する必要があり、そのためにはこのCOC事業(COC推進室)が中心的役割を担うことになるので、全学出動的な強固な組織体制を再構築する必要があると考える。

・学部生向けの「地域学入門」等の講義で実施し、学生に地域に関して興味を持ってもらうことは良いことだと思う。地方国立大学の問題点は、大学のカラーがなく、魅力をあまり感じないことだと思う。COC事業を通して宮崎の人に、宮崎大学の印象を強く持ってもらえば、受験生が増えていって欲しいと思う。

・自治体及び地元企業と協力して地域の課題に取り組む本事業は、本学のような地方大学が生き残るために重要な意味を持つと考える。本学が地域活性化の中核となり地域創成に貢献することを期待する。

・事業の名称は存じ上げていますが、内容については、ほとんど分からないという状態です。何をしているのかがもう少し分かり易く伝わることを期待します。

・これまでも宮崎県や地域の団体等と連携して、産業動物防疫リサーチセンターを中心に口蹄疫や鳥インフルエンザの防疫等については一定の成果が出てきていると感じています。さらに、宮崎県における課題調査を重ねるとともに、冬でも屋外スポーツが可能な温暖な気候等、恵まれた環境を活かして食との関わり等を基に、展開される事業も可能ではないかと思えます。また、新たに設置予定の地域資源学部で、地域志向型のカリキュラム等を学んだ学生が卒業後、宮崎県等に一定数採用されるシステムを作り、地域活性化のために貢献できるようなシステム作りが構築されることを期待します。

など

3-4. 自治体

(1) 本学の取り組みは「みやだいCOC事業」として満足か。(自由記述方式)

・宮崎県

| |
|---|
| 満足 |
| 現時点での関係者の取り組みについては満足している。本事業はまだ始まったばかりであり、事業効果が現れるのはもう少し先になると思われるが、地域学生マイスター制度において、「地域学入門」でのフィールドワークのクラスサイズが大きすぎるなど、その称号に見合った講義内容なのか不透明であること、また、地域志向教育研究経費において、地域等との連携が見えづらいことなど、今後改善すべき点がある。 |

・日向市

| |
|--|
| 大いに満足 |
| 特に、地域をフィールドとした現地調査は、大学のない本市にとって、大学生に本市を知ってもらうきっかけとなった、行政や市民等との交流の場となった、また、地域課題等に対して若者の意見や考えを聞くことが出来た、地域の活性化等に興味をもってもらった等、今後の地域振興を図る上で参考となった。 |

・串間市

| |
|--|
| 大いに満足 |
| 平成26年8月に子供向け科学まつりを初めて企画実施した。大学側の積極的な提案や連絡調整等により、パートナーシップを築く大きな一歩となった。また地域の大学として、科学分野を切り口とした活動は、児童生徒に大きな夢をもたらす結果を生み、継続的な取り組みへの発展が期待できる内容となった。 |

・西都市

| |
|--|
| 満足 |
| 本市の地域課題に対して、積極的に助言を頂き満足しているところである。今後も、「地域のための大学」としてご助言を頂きたい。 |

・えびの市

| |
|--------------------------------|
| 満足 |
| 都市部在住の若い学生の視点で地域興しを分析していただいたから |

・五ヶ瀬町

| |
|------------------------------------|
| 満足 |
| 本町の農林産物に付加価値が付く結果に導く取り組みに感謝しております。 |

(2) みやだいCOC事業としての取り組みに期待しているか。また、期待している点について (自由記述方式)

・宮崎県

大いに期待している

県としては、地方創成の流れの中で、地域と大学との連携は今後、ますます重要になると考えており、貴学の取り組みには、大いに期待しているところである。今後貴学の取り組みが、県内の他大学や市町村、地域企業にも広がるよう引き続き、連携していきたい。

・日向市

大いに期待している

- ・地域をフィールドとした教育活動の継続
- ・地域活動への大学生の参加
- ・大学の持つ知識や技術の共有
- ・調査研究や共同研究、開発

・串間市

大いに期待している

補助期間終了後はどうするかについて、常に意見交換をしていることはとても大切なことです。一過性でなく、“継続的”な取り組みが、自治体としても最も期待していることです。財源の問題、人材（指導者）の問題に加え、互いが負担を感じない先を見据えた取り組みをしたいと思います。そのためにも、大学には今後ともお互い“遠慮のない”“本音で話せる”存在であって欲しいと期待しています。最終目標は、大学が何かをしてくれるではなく、自治体が自立するためのアイデアや提案をしながら、継続的なスタイルを協働で作りに上げていけることを期待しています。

・西都市

大いに期待している

本市では、地方創生・人口減少克服という構造的課題に取り組むため、「地方版総合戦略」を策定し、国・県と一体となって今後あらゆる施策を展開し取り組んで行くところでもあります。この地方版総合戦略の基本目標の一つである「地方に新しい人の流れをつくる」事の達成のため、地域人材の育成や、地域への若者定着、地元大学への進学促進等の施策について記載する予定であります。よって現在進めている貴大学の取り組みが、本市の総合戦略の施策について記載する予定であります。よって現在進めている貴大学の取り組みが、本市の総合戦略の施策にリンクするところが多々あると思いますので、みやだいCOC事業に大いに期待しているところでもあります。

・えびの市

大いに期待している

若い視点での分析と、大学ならではの学術的なアプローチは地域経営にとって不可欠な視点であるから

・五ヶ瀬町

大いに期待している

宮崎県の大学として県の特徴をも担う人を育てる大学であって欲しいと思います。また、地元に残って、地元の大学で学びたいという中学生・高校生が希望をもって、進学する大学であって欲しいと思います。COC事業が県民の皆さんにその点もPRする事業になればと思います。

(3) 本学の取組は副申した事業計画通りに進捗していると思うか (自由記述方式)

・宮崎県

はい

平成26年度事業については計画通りに実施されていると思うが、今後は学生や地域の満足度や事業の質をより向上させることにも留意しつつ、平成27年度からも事業に取り組んでいただきたい。

・日向市

はい

(未記入)

・串間市

はい

当市においては、「甘藷のひげ根処理装置の開発研究」「6次化セミナー」「公民館講座」等々、計画に沿って進捗している。

・西都市

はい

本市と連携して取り組んでいる事業については、計画通りに進んでいるのではないかと
思う。

・えびの市

わからない

事業計画通りに実施していただいたと思うが、確認をすることができなかった。

・五ヶ瀬町

はい

事業計画の研究内容や社会貢献において、実績がある。

(4) 本学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思うか (自由記述方式)

・宮崎県

はい

COC事業に採択されてから、地域と大学が連携する場面は確実に増えてきている。地方創生の取組が進む中で、ますますその機会は増加するものと考えており、円滑な連携の為にコーディネーターの増員など、コーディネーター機能の充実が今後必要である。

・日向市

はい

地域学入門では、担当者間で何度も打ち合わせを行い、当日の運営もスムーズであった。

・串間市

はい

当市においては、「甘藷のひげ根処理装置の開発研究」「6次化セミナー」「公民館講座」等々、円滑な連携をしている。

・西都市

はい

本市と宮崎大学との間では、常々連絡は取り合っているため、円滑な連携のもと実施されていると感じる。

・えびの市

はい

実施に伴う協議を数回行っていただいたため。

・五ヶ瀬町

わからない

研究の实地調査や公開講座といった実績があるが、情報連絡窓口が複数にわたり、五ヶ瀬町役場内でも宮崎大学内でも連携がとれていないように感じるがあった。